科目名		担当教員	
卒業研究		本学専任教員	
科目コード	単位数	履修方法	配当年次
ZZ5991	8	卒業研究	4 年
ZZ5992	4		
生成 AI 利用レベル	指導教員による		

※2024 年度までの入学者は ZZ5991（8 単位）、2025 年度以降入学者は ZZ5992（4 単位）です。
※この科目は、受講にあたって条件がありますので、ご注意ください。

科目の概要

■科目の内容

卒業研究は、社会福祉学または福祉心理学の研究手法に関する知識と技術を修得することを目的とします。先行研究を理解したうえで自らの研究テーマを設定し、研究目的や研究計画を作成します。仮説を立て、研究計画を立案、調査を実施し、結果データから分析及び考察を行います。また、研究倫理の重要性を踏まえた研究論文の作成を求める。

学生自身が考える“well-being”実現のため、人間・環境、社会の相互作用においてもたらされる不断な研究に期待します。

■到達目標

１）卒業研究のテーマを見つけることができる。
２）テーマに関連した文献をレビューできる。
３）研究の目的を考え、研究デザインをつくることができる。
４）仮説を立てることができる。
５）調査のための質問紙の作成と、調査が実施できる。
６）結果について統計処理ができる。
７）考察を行い、論文としてまとめることができる。

■卒業研究の流れ

1　研究テーマの決定

⑴　問題意識の具体化・明確化

一般に論文を書く場合、まず第 1 に、テーマをどのようなものにするかが問題となります。テーマは、かなり漠然とした興味や関心から出発することが多いものです。また、講義や実習・実験の中で、こういうことを研究したいという、ある程度具体的な問題意識を持つ場合もあるでしょう。しかし、いざ自分の研究として進めていこうとすると、どこから手をつけてよいか、方向づけに迷いがちなものです。したがって、研究を進めていく第一歩は、問題をできるだけ明確にし、一定期間内でまとめあげられるように絞り込んでいくことです。そのためにはまず、自分の興味・関心に関連のある文献を読むことが必要です。また、この段階で可能ならば通信教育部事務室を通して然るべき先生に相談し、指導を仰ぐことも、問題意識を深める上で非常に役立つはずです。はっきりした問題意識の方向がなかなか定まらない場合には、文献を読むことによって、おもしろそうな問題を発見することもあります。

⑵　関連文献を調べること

問題意識がある程度具体化してきたら、関連のある文献を読み始めます。文献とは、単行本だけではなく、オリジナルな論文（専門誌・学会誌や紀要など＝『福祉心理学科スタディ・ガイド』参照）も含まれます。

文献は、まず、最も新しいものを読み、それからさかのぼって読んでいくのもよいですが、１つの論文を読むと、それに関連した文献が、参考文献（references）の欄に挙げられているため、その文献を次々に読んでいくのが効率的です。関連論文が見つかったら、自分なりの文献目録を作ると、後で本格的に文献を整理する時に効果的です。

⑶　仮テーマ（仮題）の決定＝卒業研究の受講申込み

３月卒業希望者：４月５日必着／９月卒業希望者：10月５日必着でお申込みください。

⑴、⑵により、ある程度問題意識が明確になったら、仮テーマを決定します。通信教育部 HP よりダウンロードする「卒業研究　申込用紙」に必要事項を記入して、大学に提出します。各自の提出したテーマについて検討し、大学で指導教員を決定します（希望の教員と異なる場合があります）。

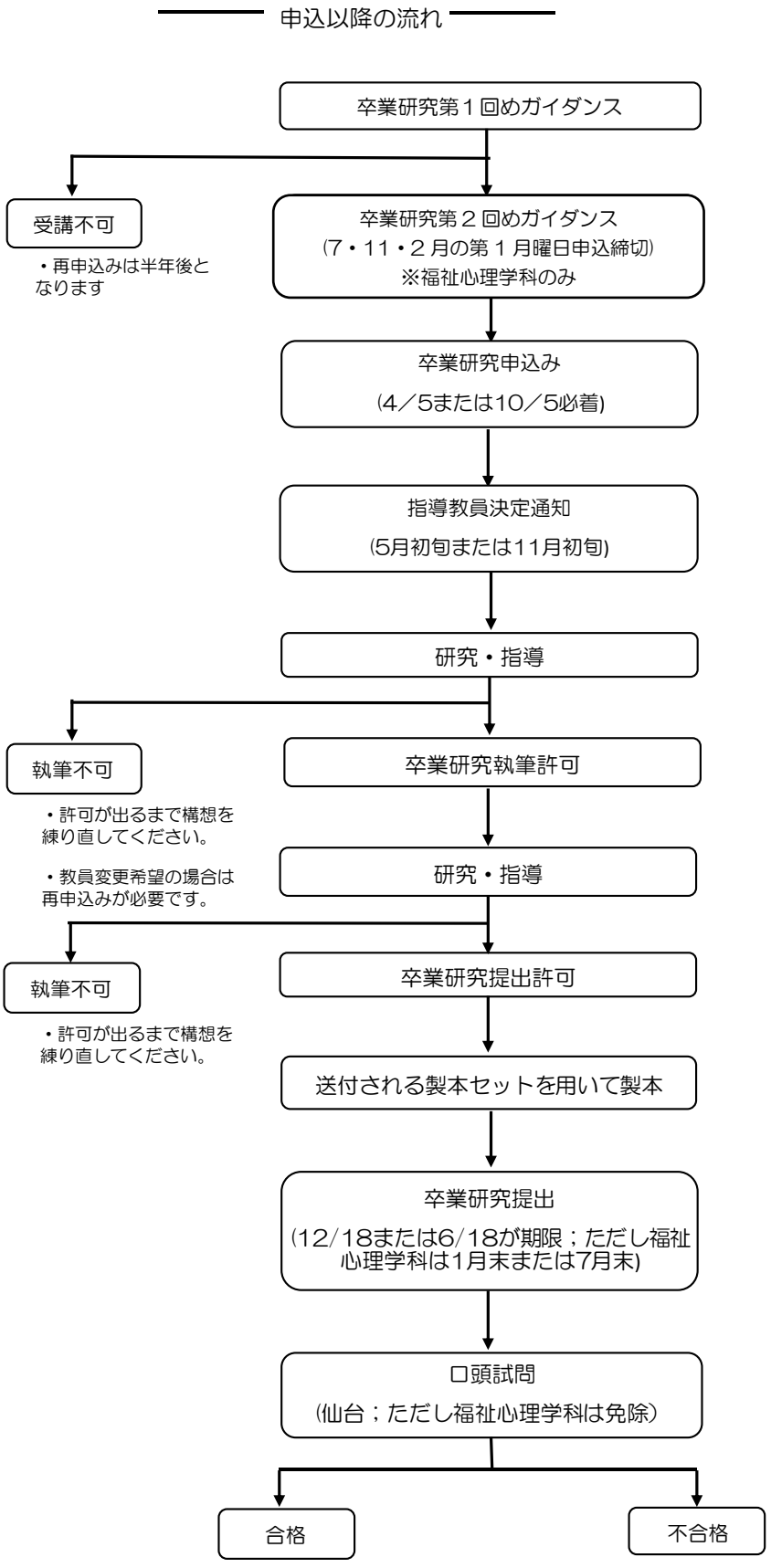
この段階で「卒業研究の受講条件」を満たしていることが必要です。また、テーマや主旨が明確でない方は、卒業研究の受講ができない場合もありますので、ご了承ください。

⑷　指導教員の決定

通信教育部から書面で連絡（５月初旬／11 月初旬に発送予定）。なお、指導教員が決まったら、できるだけ早く面接指導や通信指導にて、初回の指導を受けてください。

⑸　テーマ（論題）の最終決定

指導教員の指導、助言をもとに、具体的なテーマを決定します。テーマは、研究の具体的な内容が理解でき、かつ簡潔なものであることが望まれます。



また、やや抽象的なメインテーマに、具体的なサブテーマをつける方法もよく使われています。

2　研究を進める

研究を進めるプロセスとしては、①文献研究、②データ・資料の収集・分析、③執筆などが考えられますが、指導教員の指導を十分に受けてください。研究・執筆の過程で、最低限２回の面接指導、３回の通信指導を受けることが必要です。ただし面接指導の回数が２回より多くなる場合は、通信指導はその分減らすことができます。

なお、口頭で構いませんので指導教員から、執筆の前には卒業研究執筆許可を、提出の前には卒業研究提出許可をもらうようにしてください。

また、調査やインタビューなどを実施する前には、必ず指導教員の了承を得る必要があります。福祉心理学科の場合は、指導教員の了承を得たうえで、調査に協力をいただく機関ないし個人に「調査依頼状」を提出してください。「調査依頼状」の書式見本は、『福祉心理学科　スタディ・ガイド』に掲載されています。ご自身で作成した「調査依頼状」に指導教員の署名・捺印をいただいたうえで、ご自身で調査依頼先に提出します。なお、書式フォーマットを希望される方は通信教育部卒業研究担当までご連絡ください。

⑴　通信指導（３回以上）

通信指導は、卒業研究の進行状況に応じたレジュメ（要旨・要約）などを作成・提出することにより指導教員に指導を受けるものです。指導は、一般的には通信教育部事務室経由で郵送で行いますが、指導教員によっては学生ー教員間で直接やりとりを行います。

また、指導教員の許可があれば Web 会議システム等を利用した指導を受けることも可能です。なお、Web 会議システムを利用した指導の場合、面接指導に替えることもできます。希望者は、卒業研究係までメールでご相談ください（メールアドレス　ua@tfu.ac.jp）。

⑵　面接指導（２回以上）

面接指導は、担当教員と直接会い、指導を受けるものです。原則として、本学の演習室か教員研究室で行います。面接指導には、事前の申込みが必要です。申込みは、⑴通信教育部事務室経由で行う場合、⑵指導教員と直接相談して決めていただく場合があります。

通信教育部事務室経由で行う場合は、通信教育部 HP より「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」をダウンロードし、面接指導欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、FAX または郵送でお申込みください。同様の内容を記入し、メールでの申込みも可能です。

■学位授与の方針（ディプロマポリシー）との関連

とくに「人間理解力」「実証的分析力」「主体的協働力」を身につけてほしい。

■教科書・参考図書

【教科書】

各自で研究テーマに応じて準備。福祉心理学科の方は『福祉心理学科スタディ・ガイド』Ⅵ章は必読。

【参考図書】

１）論文執筆全般に関するもの

吉田健正著『大学生と大学院生のためのレポート・論文の書き方（第２版）』ナカニシヤ出版、2004 年

新堀聡著『評価される博士・修士・卒業論文の書き方・考え方』同文舘出版、2002 年

慶應義塾大学通信教育部編『卒業論文の手引＜新版＞』慶應義塾大学出版会、2003 年

山田剛史・林創著「大学生のためのリサーチリテラシー入門」ミネルヴァ書房、2011 年
白井利明・高橋一郎著『よくわかる卒論の書き方』ミネルヴァ書房、2008 年
奥田統巳ほか著『読みやすく考えて調べて書く（第２版)』学術図書、2003 年

２）社会福祉学関連

川村匡由著『福祉系学生のためのレポート＆卒論の書き方』中央法規出版、2002 年
久田則夫著『ノリさんの楽々レポート作成術』大揚社、1995 年
平山尚ほか著『ソーシャルワーカーのための社会福祉調査法』ミネルヴァ書房、2003 年
斎藤嘉孝著『社会福祉調査　ワードマップ』新曜社、2010 年
立石宏昭著『社会福祉調査のすすめ』ミネルヴァ書房、2005 年
畠中宗一・木村直子著『社会福祉調査入門』ミネルヴァ書房、2004 年
岩田正美ほか編『社会福祉研究法』有斐閣、2006 年
鈴木庄亮ほか著『保健・医療・福祉のための論文のまとめ方と書き方［改訂第２版]』南江堂、2006 年

３）歴史学関連

歴史科学協議会編『卒業論文を書く』山川出版社、1997 年

４）心理学関連

「福祉心理学科　卒業研究作成のしおり」の文献欄参照（『福祉心理学科スタディ・ガイド』所収）

新しいものとしては、下記の書籍がある。

板口典弘・山本健太郎著『心理学レポート・論文の書き方　演習課題から卒論まで（ステップアップ心理学シリーズ)』講談社サイエンティフィク、2017 年
小塩真司・宅香菜子著　『心理学の卒業研究ワークブック』金子書房、2015 年
松井豊著『心理学論文の書き方（改訂新版)』河出書房新社、2010 年
都筑学著『心理学論文の書き方』有斐閣アルマ、2006 年
杉本敏夫著『心理学のためのレポート・卒業論文の書き方』サイエンス社、2005 年

※統計の基礎を学ぶものとしては、下記の書籍がお勧めです。

櫻井広幸・神宮英夫著『使える統計　Excel で学ぶ実践心理統計』ナカニシヤ出版、2003 年
吉田寿夫著『本当にわかりやすいすごく大切なことが書いてあるごく初歩の統計の本』北大路書房、1998 年
B.フインドレイ著『心理学　実験・研究レポートの書き方　学生のための初歩から卒論まで』北大路書房、1996 年
岩淵千明編著『あなたもできるデータの処理と解析』福村出版、1997 年
浦上昌則・脇田貴文著『調査系論文の読み方』東京図書、2008 年
近藤宏ほか著『Excel でかんたん統計分析』オーム社、2007 年
小塩真司著『研究事例で学ぶ SPSS と Amos による心理・調査データ解析』東京図書、2012 年
小塩真司著『SPSS と Amos による心理･調査データ解析（第３版）―因子分析・共分散構造分析まで』東京図書、2018 年

レポート学習

■在宅学習 30 のポイント ――――――――――（通信指導３回以上・面接指導２回以上の受講は必須）

回数	テーマ	内容
1	研究テーマの設定	関心のあるテーマで、研究として成り立つものを設定する。
2	文献の収集①先行研究	テーマに沿った先行研究を探す。

3	文献の収集②文献検索	テーマに沿った文献を、インターネットで検索し収集する。
4	文献の整理①項目整理	収集した文献の内容を項目ごとにまとめカード化する。
5	文献の整理②全体把握	カードについてKJ法などを用いて全体性をつかむ。
6	再度文献の収集	不足している文献の収集を行う。
7	再度文献の整理	付け加えた文献の整理を行う。
8	文献のレビュー	整理した文献についてのレビューを行う。わかっていることとわからないことを確認する。
9	研究の目的	研究の目的を決定する。
10	独立変数と従属変数	独立変数と従属変数の関係について検討する。
11	仮説の生成	研究で明らかにしたいことを踏まえた仮設を設定する。
12	研究の整合性	研究の整合性が保たれているか、検討を行う。
13	統計の方法	どのようにして統計処理を行うか、具体的に検討する。
14	尺度の設定	どの尺度を使用するかの検討と決定を行う。
15	質問紙作成に向けてのチェック	ここまでの工程を振り返り、不備がないかどうかの確認作業を行う。
16	質問紙の作成	実際に質問紙を作成する。
17	質問紙の最終チェック	調査のための質問紙に不備がないかどうか最終チェックを行う。「調査依頼状」の作成・提出。
18	アンケートの実施	本調査を実施する。調査を依頼するときの配慮や依頼の仕方に十分注意すること。
19	データの入力	調査データを間違えのないよう入力する。
20	データの分析	入力したデータを統計分析する。
21	結果の整理	分析の結果を整理する。
22	仮説の検討	結果を元に仮説が妥当かどうか検討する。
23	卒論の執筆前準備	構成として先行研究のレビューを行う。
24	卒論執筆①目的・仮説	目的、仮説を書く。
25	卒論執筆②方法	方法として、対象、質問紙の構成、調査の実施の手続きを書く。
26	卒論執筆③結果	結果にどのような統計分析を行ったかについても書く。
27	卒論執筆④図表	図表を作成する。
28	卒論執筆⑤考察	仮説についての考察を行う。予防や援助につながる点からの考察を望む。
29	卒論執筆⑥文献	引用文献、要約、資料などについて、書き方にしたがってまとめる。
30	卒論完成	論文をしっかりと通読し、最終の推敲を行ったうえで提出する。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、手順が異なります。

■在宅学習の留意点

１）卒業研究の取り組みは、原則として、自分なりの取り組んだ時間が学習になる。

２）卒業研究の執筆方法のための参考文献をよく読むこと。

３）テーマに関連した文献を最低でも30以上読むこと。

４）独立変数と従属変数との関係から、仮説を立てること。

５）研究の流れを考え、どのような統計分析を使うかを見極めること。

６）あせらないためにも、早め早めの取り組みを行うこと。

７）図表や引用文献の書き方を習得しておくこと。

８ ）研究全体を通して倫理には最大限の配慮を行うこと。

※文献研究など質問紙調査以外の研究については、留意事項が若干異なります。

■卒業研究　評価基準

提出された卒業研究をもって行う。

■提出の方法

⑴ 400 字詰原稿用紙で 50 枚以上 100 枚以内の分量が必要です。もちろん卒業研究としてふさわしい論文の内容でないと合格することはできません。

⑵ パソコンの場合、ページ設定は下記に統一してください。

- A4 判の用紙ヨコ書　左右 40 字×上下 30 行　余白上下左右各 30mm
- 文字サイズは本文 10.5 ポイントを原則としてください。見出しは、適宜大きいポイントにしたり、太字にしてください。

⑶ ページ数を頁下部に記入または印字してください。

⑷ 本文以外に、論文のスタイルにそって①目次や②注または引用・参考文献などをつける必要があります。

⑸ ３月卒業希望者の論文提出締切は 12 月 18 日（ただし福祉心理学科は１月末）、９月卒業希望者の論文提出締切は６月 18 日（ただし福祉心理学科は７月末）前後となり、1～2 月、7～8 月の口頭試問に合格することが必要です（福祉心理学科は口頭試問なし）。提出の際の「製本」仕様については受講者にご案内します。なお、論文は正副あわせて２部提出していただきます。

⑹ 論文は本学通信教育部事務室などで公開されます。プライバシー侵害などのないようにし、個人情報の記載は行わないでください。

■卒業研究の受講条件

⑴ 正科生・4 年生以上で、受講申込締切日〔4／5 or 10／5〕までに「卒業研究」を履修登録し、卒業見込となる単位数（1 年次入学者は 90 単位以上、2 年次編入学者は 60 単位以上、3 年次編入学者は 28 単位以上）を修得済みであること。

⑵ 自身で研究したいテーマがあり、論文の構想が申込み時に作成できていること。指導教員は、希望する研究テーマにもとづき大学側で決定します。

⑶ 執筆の過程で、最低２回以上の面接指導、３回以上の通信指導を受けられること。

⑷ **福祉心理学科で「卒業研究」を受講するためには、下記①～③の条件を満たす必要があります。**

【2017 年度以前入学者】

① 受講申込締切日までに「心理学実験Ⅰ・Ⅱ」「心理学研究法Ⅰ」「心理学研究法Ⅱ（または「心理学統計法」）」の単位が修得済みであること。

② 実験・研究法・特講科目・S 科目を除く福祉心理学科　専門必修科目・専門選択科目 A 群のうち 10 科目以上の単位を修得しているか、学習を終了（レポート提出済、かつ科目修了試験受験済 or スクーリング受講済）していること。

③ 「卒業研究第２回目ガイダンス（事前個別相談）」を受講していること。

【2018 年度以降入学者】

① 受講申込締切日までに「心理学概論 A・B」「福祉心理学」「発達心理学」「社会・集団・家族心理学 A（社会・集団心理学）」「臨床心理学概論Ⅰ」「心理学実験ⅠA・B」「心理学実験ⅡA・B」「心理学研究法 A」「心理学統計法」を含む専門必修科目・専門選択科目 A 群（S 科目を除く）から 15 科目以上の単位修得、または学習を終了（レポート提出済、かつ科目修了試験受験済み・スクーリング受講済み）していること。

② 「心理学研究法 B」を履修登録し学習中であること。
③ 「卒業研究第２回目ガイダンス（事前個別相談）」を受講していること。

■福祉心理学科・卒業研究ガイダンス

福祉心理学科で卒業研究の受講を考えている方を対象に、事前に２回の「卒業研究ガイダンス」を行っています。なお、以下のガイダンスに出席したから必ず「卒業研究」に取り組まなければいけないということはありません。
※卒業研究指導教員とガイダンス担当教員は異なる場合があります。

⑴ **卒業研究第１回めガイダンス**

卒業研究の概要について説明されるもので、「TFU オンデマンド」にて視聴します（科目名「福祉心理学科・卒業研究ガイダンス」）。第２回めガイダンスまでに必ず視聴してください。視聴環境がない場合、通信教育部までご相談ください。第１回めガイダンスの受講申込みは不要です。

⑵ **卒業研究第２回めガイダンス（事前個別相談）**

３年生以上の方が、希望するテーマをもとに教員と個別、または少人数のグループで相談するものです。

第２回めガイダンス（事前個別相談）は、毎年３・８・12 月ごろに実施しており、下記の要領で申込みが必要です。

・卒業研究第２回めガイダンス（事前個別相談）の申込方法

通信教育部 HP より「卒業研究ガイダンス・面接指導申込書」をダウンロードし、「ガイダンス」欄と「相談・質問内容」欄に必要事項を記入して、郵送または FAX（FAX で返信可の場合のみ）でお申込みください。同様の下記の内容を記入し、卒業研究係あてにメールでの申込みも可能です（メールアドレス ua@tfu.ac.jp）。

メールの件名　卒業研究第２回めガイダンス申込み

メール本文　下記①～⑩を箇条書きに記入してください。

① 卒業研究第２回めガイダンス申込み
② 氏名
③ 学籍番号
④ 住所
⑤ 連絡先電話番号・FAX・携帯番号
⑥ メールアドレス
⑦ 卒業研究で取り組んでみたいテーマ（簡単で可）
⑧ 希望日時（期間内でできるだけ多くの候補をあげてください）
⑨ 希望教員の有無（なしでも可。ある場合は第１希望・第２希望）
⑩ （あれば）質問

・卒業研究第２回めガイダンス（事前個別相談）の実施期間および申込締切日

申込締切日	連絡予定日	第２回めガイダンス期間
７月第１月曜日必着	７月 20 日すぎ	８月 1～25 日ごろ
11 月第１月曜日必着	11 月 20 日すぎ	12 月 1～25 日ごろ
２月第１月曜日必着	２月 20 日すぎ	３ 月 1～25 日ごろ

■社会福祉学科　卒業研究ガイダンス

社会福祉学科の方のための全体ガイダンスも「TFU オンデマンド」（名称「卒業研究ガイダンス」）にて視聴が可能です。

社会福祉学科の方で、取り組んでみたいテーマはあるが研究方法がわからないなどご質問・ご相談のある方は、⑴学籍番号、⑵氏名、⑶卒業研究テーマ、⑷質問内容を記入し、郵送・FAX・メールなどの書面で通信教育部までお問い合わせください（メールアドレス　ua@tfu.ac.jp）

■諸注意

卒業研究を途中で断念する場合は、通信教育部または指導教員まで文書にて（様式自由）ご連絡ください。

卒業研究は 1 年で終えなくても継続して取り組むことができます。

卒業研究を「科目等履修生」として履修することはできません。

福祉心理学科　卒業研究指導教員一覧（五十音順）

『　』内は過去の指導論文タイトルの一例。

指導教員名	指導分野と過去の指導論文タイトル
内山　博之	司法・犯罪心理学
大関　信隆	発達障害・認知機能に関する実験心理学的研究 情動・ストレスに関する実験心理学的研究 『通園施設における園内活動が養育者の心理的変化に及ぼす効果に関する研究』、『音楽を媒介した知的発達障害に伴う自閉症者支援の可能性に関する研究』、『子どもの不登校や発達に悩む母親へ小児科クリニックの看護師ができること－子どもとの関わりも含めた母親支援－』
佐藤　俊人	主として乳児期から青年期までを対象とし、その発達や心理に及ぼす環境の影響について調査、実験を通して検討します。 『成人のストレス対処についての研究～「癒し」の視点から～』、『「冬のソナタ」と韓流ブームとの社会的な要因・背景を探る』、『「子どもはどうして親と同じような考え方や行動をするのか」～親子のつながりって意外とおもしろい～』、『青年期における自我同一性と対面的コミュニケーションによる友人関係とインターネットコミュニケーションによる友人関係の差異』、『子どもの愛着の安定性と養育者の育児ストレス、および身近な支援との関連について～保育園に入園している 1 歳児クラスの子どもの養育者に対する質問紙調査を通して～』、マンダラ塗り絵が人の心にもたらすもの
柴田　理瑛	実験心理学、認知科学、発達心理学 『防災・減災の取り組みに関する動機づけ尺度の作成および妥当性・信頼性の検討』、『大学生の職業選択における自尊心尺度の関係について』
清水　めぐみ	臨床心理学、深層心理学、心理療法に関する卒論の指導を行います。 『難聴者における難聴の程度及びアサーティブネスと「健聴者の世界との葛藤」の関係についての研究』
白井　秀明	「教えること」「学ぶこと」「動機づけ」に関わる分野 『青年期における父親への抵抗の表出と心理的離乳との関係―父親の態度との関連から―』、『看護教員初年度における小児看護学実習指導に関する一考察～看護実践を学ぶためのよりよい実習過程の実現に向けての取り組み～』、『看護師の自我同一性及び自律性の発達と終末期患者の自己決定に対する援助傾向の認識の関係について』、『看護師が抱く看護肯定感と看護職を続けていくうえでの支えに関する調査』、『学習行動の主体性に及ぼす学習動機と内的矛盾の感性の影響』、『フィンランドの教育について～子どもたちの心の中で何が起きているのか～』
武村　尊生	臨床心理学、心理アセスメント、心理療法、心理的介入、リエゾン精神医学
内藤　裕子	学校保健、臨床心理学
中村　　修	発達心理学、健康心理学分野

	『福祉系大学 1 年生における福祉職の選択意思に及ぼす福祉体験の影響～大学入学前の福祉体験と入学後の実習体験を中心に～』、『働く人々の生きがい感に影響を与える要因　―成人期初期を対象として―』
中村　恵子	学校心理学・カウセリング分野 『社会人学生の自ら学ぶ意欲とワーク・エンゲイジメントの関連』、『青年期と成人期における自尊感情と対人ストレスイベントおよび精神的回復力との関連』、『精神障害者が就労を決意してから職場に定着するまでの心理的プロセス』、『通信制大学に通う子育て中の女性はどのような成長的変容を遂げるのか』
平川　昌宏	生涯発達心理学、発達臨床分野 『保育経験年数が保育観と保育場面における働きかけに及ぼす影響～保育専攻学生及び保育経験の異なる保育者間比較を通した検討～』、『育児期の母親における過剰適応傾向と統合的葛藤解決スキルの関連』、『小学生の自己受容に関する研究－小学生の時の母親の養育態度と信頼感に着目して－』
三谷　聖也	臨床心理学、心理療法、家族心理学、ブリーフセラピー 『これからのひきこもり支援―従来の支援法の成果と今後の課題―』
山口　奈緒美	社会心理学分野（寛容性、対人葛藤、葛藤解決） 『文化的自己観の違いが対人葛藤場面における罪悪感喚起に及ぼす影響』、『計画達成に対する不安と一方的指示、防衛的悲観性、相対的剝奪感がパワハラ行動に与える影響及び人事評価（相互）が上司の問題行動の改善に与える影響』、日本の文化的思考・慣習(宗教含む)が自尊感情(自己肯定感)に及ぼす影響 :親の伝統的価値観や家制度の重視度に注目して :なぜ親たちは毒親になってしまったのか？
山本　　良	臨床心理学、遊戯療法、学生相談
吉田　綾乃	社会心理学分野（自己、対人行動、集団行動など） 『成功体験の意味づけと振り返りが自己及び他者への肯定的感情に及ぼす影響―在米高校生の組織キャンプにおけるリーダー経験に基づく検討―』、『職場の復職支援のあり方に関する研究：職場復帰において管理職が考える支援と復職者本人の職場に対する期待感のずれに着目して』、『社会人の友人関係と社会適応の関連性について：内面的類似性・対人コンピテンスの観点から』、『援助者の依存性と共感性および被援助者のライフストーリーの有無が援助行動に及ぼす影響』、『社会人のナショナル・アイデンティティ、関係効力感と差別意識の関連性について』ほか
渡部　純夫	臨床心理学 ・病院臨床…病院における心理療法のあり方と効果 カウンセリング技法 ・学校心理学…スクールカウンセリングの枠構造 チームアプローチの効果的技法 ・芸術療法…箱庭療法、描画療法

	『心身の健康に及ぼす主観的健康統制観について』、『高校生における親に対する信頼感に関する研究―基本的信頼感及び対人的信頼感に関連して』、『集合同一化と対人ストレスの相関関係について』、『高校生の風景構成法を通した不登校傾向』